自立活動だより

紀北支援学校自立活動部

令和5年1月発行

年も明け新たな１年がはじまりました。１月号の自立活動だよりは、高等部の自立活動の取り組みについて紹介します。今年度の高等部の生徒数は９４名です（令和５年１月１０日現在）。知的障害学級（通称１ブロック）は７７名の生徒が在籍し、肢体不自由重複学級（通称２ブロック）は１２名の生徒が在籍しています。また、２ブロックには訪問学級があり５名の生徒が在籍しています。

自立活動の授業形態は、子どもの実態や目標に応じて個別または小集団で行い、活動内容も様々です。一部ではありますが紹介します。

【高等部１ブロック３年生Ａさんの取り組み】

☆ねらい

『健康の保持』『身体の動き』

『心理的な安定』

・体力や筋力をつける。

・バランス感覚を身に付ける。

・自分で順番を決める事で、見通しを持ち、意欲的に活動する。

☆活動内容

・写真カードを選択し、自分で順番を決め、ストレッチや運動（お尻上げ、片足立ち、つま先立ち、スロープ歩行など）を行う。自分で数を数えたり、教師がストップウォッチで時間を計ったりして行う。もう少し頑張れそうであれば、回数を増やすなど調整しながら行う。

☆経過・成果

４月当初は、壁にもたれかかり支えながら階段を上り下りしたり、教室移動等の日常の動作も自分のペースでゆっくり活動したりしていました。高３という事を考えて、卒業後は家族の方と楽しく散歩をしたり、外出時に壁や手すりのない階段も上り下りしたりできればいいなという思いから、筋力アップのトレーニングを自立活動の取り組みとして行ってきました。

活動内容は少しずつ変化を加えていき、始めは決まったプログラムで行っていましたが、２学期からは意欲的に、見通しを持って取り組めるように、運動の順番を自分で決め、写真カードを貼って行うように変更しました。トレーニングを頑張った日は、『がんばったカード』に好きなキャラクターのシールを貼るなど、頑張った後の楽しみを実感できるようにしています

筋力がつくこと以上に、気持ちの面でも、もう少し頑張ってみよう！と思うようになり、意識して早く行動する姿も見られるようになりました。階段の上り下りは、自分自身で意識して軽く手すりを持って行えるようになり、修学旅行では本宮大社の１５８段の階段を、自分のペースで登り切る事ができました。

今後は、卒業後を見据えて、家でも楽しく継続していけるようなトレーニングを考え、取り組んでいってもらいたいと考えています。

【高等部　訪問学級　Ｂくんの取り組み】

☆ねらい☆

『環境の把握』：（１）保有する感覚の活用に関すること。

『身体の動き』：（１）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

『コミュニケーション』：（１）コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

☆活動内容☆

ご家庭に訪問して授業を行っているときは、授業のはじめに『身体の動き』を中心に、立位や座位姿勢の保持に取り組んでいました。その結果、自力で立つ、座位を保持できる時間が長くなってきました。

しかし、令和２年度末より新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ご家庭に訪問しての授業ができなくなり、オンライン授業に切り替わりました。

オンライン授業となることで授業自体は何とか行うことができましたが

・教師と生徒が直接的なふれあいができない。

・課題設定が限られる。

・訪問授業以上に、保護者の協力が不可欠である。

といった課題があり、特に自立活動については、今まで行ってきたような直接的に身体にアプローチを行う『身体の動き』に対する取り組みは行うことができなくなったため、『コミュニケーション』：（１）コミュニケーション基礎的能力に関することに重きを置き、オンライン授業に取り組みました。

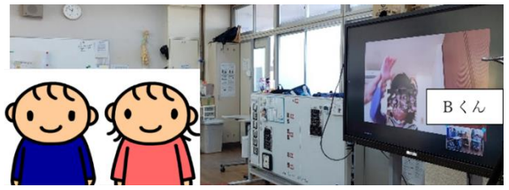
活動内容①：「にじみ絵」

教師が示す動きを見ながら、お母さんと一緒に筆を持ち、和紙に水をつけています。

●まずは「身振り手振りを使い、教師に注意を向ける」ことをねらいとし、生徒の表情や気持ちを読み取り、やりとりを始めました。また教師の要求を伝えながら、制作活動や作業学習に取り組みました。

活動内容②：「朝の会」

通学生と一緒に「朝の会」を週に２日行っています。
日直に名前を呼んでもらい、手を挙げて返事をしています。



●通学生との合同授業で、同世代の友だちや担任以外の教師との関りを持つ機会を設定しました。朝の会では名前を呼んでもらうと返事をし、時には日直を担当する日もありました。

☆経過・成果☆

オンライン授業のメリットは通学生と一緒に授業ができたり、担任以外の教師との関わりを持てたり、学校の様々な様子を見ることができたりすることです。対象物をしっかり「見る」ことに課題がある生徒ですが、オンライン授業を続けていくと、iPad に映る教師の顔を見る時間が長くなってきたり、画面に向かって手を振ったり、笑顔になったりするようになってきました。また、同世代の友だちとの関わりでは友だちの様子をよく見て、やりとりをして笑顔になっています。

新型コロナ感染症の流行により期せずして、今まで以上にコミュニケーションの幅や人との関わりの幅が広がり、新たな取り組みが行えるようになりました。今後は訪問授業とオンライン授業を併用した授業を行えればと思います。